

令和3年8月 定例教育委員会々議録

1 日 時 令和3年8月24日(火) 午後1時30分～

2 定例教育委員会

開催場所 会議室101・102

3 出席委員の氏名

教 育 長	山 田 公 一	教育長職務代理者	中 野 信 男
委 員	秦 久美子	委 員	齋 藤 純 郎
委 員	小 林 恵 子	委 員	上 田 佳 澄

4 説明のため出席した職員

教 育 次 長	太 田 和 行	主 幹	鈴 木 華 奈 子
学 校 教 育 課 長	岡 部 清 美	子 育 て 支 援 課 長	白 井 健 次
社 会 教 育 課 長	石 田 進 一	統 括 指 導 主 事	五 十 嵐 真 紀 子

5 本委員会書記

学校教育課 向 井 康 弘 他 2 名

6 傍聴人

なし

7 会議に付議した事件

会議録の承認

諸報告

- (1) 行事報告及び行事予定
- (2) 教育長報告
- (3) 寄附報告

専決処分の報告について

報告第 7 号 共催・後援の教育長専決報告について

協議題

協議第 6 号 新規共催・後援申請について

8 閉 会

会議録

別紙のとおり

1 開 会 宣 言 午後1時30分～

2 会議録の承認

全員異議なく、令和3年7月定例教育委員会々議録は承認された。

3 諸報告

(1) 行事報告及び行事予定

〈各課長が報告〉

○委員（斎藤 純郎）

「読解力育成プロジェクト講演会」については、講師である新井先生の「事実が淡々と書かれた短文を正確に読み取ることは実はそう簡単なことではなく、それが読めるかどうかで人生が大きく左右される」ということや「子どもたちに、基礎的・汎用的な読解力を身につけて中学校、そして高校を卒業させることが21世紀の公教育が果たすべき役割の1丁目1番地だ」という話について、教育委員の一人として胸に迫るものがあった。

9月に小学校6年生と中学生を対象にリーディングスキルテストを実施し、その結果分析も行われると聞いている。教職員のみなさんも受けたと聞いた。テストを通じて改めて気づかされるが多かったと思う。それを授業改善に繋げていただきたい。

また、児童生徒の成長は非常に早いので、できるだけスピードを上げて読解力の育成に取り組んでいただきたい。

○委員（中野 信男）

「読解力育成プロジェクト講演会」について、私自身も学校できちんと読解力を身につけたのだろうかということを考えさせられた。文章を書いたり人に話をして理解してもらったりと、社会活動をする上でも必要なスキルなので、大人に対しても啓発活動を行うとよりよい社会になるのではないかと思った。

○委員（小林 恵子）

「読解力育成プロジェクト講演会」について、新井先生の「子どもたちの誤答の分析」の話が印象的であった。学校においても色々な検査があるが、例えば学力テストの結果が返ってきたら、なぜ間違えたのかを分析するのが望ましいのだが、先生方は忙しくてなかなかできていないと思う。誤答の分析は非常に大切で、授業改善にも繋がる。子どもをよく知っている先生方が誤答を分析すると、新井先生とは違った見方も出てくると思うので、忙しい中でも、夏休みなど比較的余裕のある時

期に分析できるようにテストの実施時期を検討するとよいと思う。

また、「共書き」という授業における手法が新鮮だった。教員は視覚的情報を先に出すことが多いが、それだと子どもたちが受け身の姿勢になってしまうことがあると思う。講義で学んだことを自分自身も色々なところで活かしていきたい。

○主幹（鈴木 華奈子）

この講演会から「読解力育成プロジェクト」がスタートした。講演会の前に、各学校に新井先生の著作を2冊配布し読んでもらった。参加した先生方の感想は好意的であった。この講演会で参加者に芽生えた意欲が持続するよう、教育委員会として働きかけていきたい。

（2）教育長報告

〈山田教育長が以下のとおり報告〉

1 はじめに

- 東京都、沖縄県、千葉県、埼玉県、神奈川県、大阪府に出されていた緊急事態宣言は、9月12日まで延長され、茨城県、栃木県、群馬県、静岡県、京都府、兵庫県、福岡県には8月20日から9月12日まで、緊急事態宣言が発令された。（追加された7府県は、いずれもまん延防止等重点措置からの移行）

また、北海道、石川県、福島県、愛知県、滋賀県、熊本県に出されていたまん延防止等重点措置は、9月12日まで延長され、新たに宮城県、山梨県、富山県、岐阜県、三重県、岡山県、広島県、香川県、愛媛県、鹿児島県に8月20日から9月12日まで、まん延防止等重点措置が発令された。

- 県内でも新型コロナウイルス感染者が急増しており、県は、8月5日付けで新潟市に発令していた特別警報を継続するとともに、8月20日付けで長岡市と小千谷市にも特別警報を発令した。

- 燕市では、中学校関係者の新型コロナウイルス感染が相次いで確認された。

8月5日（木）に燕中学校の関係者1名、8月7日（土）に吉田中学校の関係者1名、燕北中学校の関係者1名について、新型コロナウイルス感染が判明し、それぞれ判明した日から夏季休業中の諸活動を休止した。

保健所による積極的疫学調査の結果、いずれの中学校もほかに陽性者が認められなかったことから、燕中学校については一部の活動を除き8月7日（土）に、吉田中学校と燕北中学校については8月11日（水）に活動休止を解除した。なお、校舎内における諸活動については、燕中学校は8月14日（土）から、吉田中学校と燕北中学校については8月16日（月）から再開した。

- 燕市立小中学校の教職員を対象とした新型コロナウイルスのワクチン接種については、8月6日（金）と7日（土）に、弥彦村の大規模接種会場で2回目の接種

が行われた。

2 8月の行事から

(1) 新井紀子氏講演会（8月2日（月））

- 学力向上に向けた燕市の新たな取り組みとなる「『読解力』育成プロジェクト」のキックオフ事業として、『A I vs. 教科書が読めない子どもたち』の著者で、一般社団法人 教育のための科学研究所所長の新井紀子氏の講演会を8月2日に開催した。
- 当初は、新井氏を燕市に招いて講演会を開催する予定であったが、東京都に緊急事態宣言が出されたことを受け、オンラインによる講演会の開催となった。市内の小中学校の先生方は、それぞれの学校においてオンライン講演会に参加した。
- 講演会の受講者からは、「読解力と聞くと国語というイメージがあったが、各教科で定着していくことが重要であると知り、今後の授業に活かしていきたい」「5年生の社会科の教科書を通しての説明がわかりやすかった。すぐに役立つと思う」などの感想が届いている。
- 各小中学校における今後の取り組みに期待したい。

(2) 理科講演会（8月3日（火））

- 燕・弥彦科学教育センター主催の「理科講演会」が、8月3日に吉田小学校を会場に開催された。
- 今回の理科講演会は、上越教育大学大学院の山田貴之准教授を講師に迎え、「学習指導要領に基づく理科の授業づくり」をテーマに実施した。
- 当日は、燕市から12名、弥彦村から1名の計13名の先生方から受講いただいた。講義だけでなく、児童生徒から興味や関心を持ってもらうための導入となる理科実験の実習もあり、充実した講演会だったと感じている。
- 受講いただいた先生方からは、研修内容を自身の授業に活かすだけでなく、多くの先生方に広めてほしいと考えている。

(3) 燕市生涯学習推進協議会（8月5日（木））

- 令和3年度第1回燕市生涯学習推進協議会を8月5日に開催した。
- 同協議会では、第2次燕市生涯学習推進計画の令和2年度実績値について報告するとともに、令和3年度の目標値について説明させていただいた。
また、第2次燕市生涯学習推進計画の計画期間が令和4年度までとなっていることから、次期計画となる第3次燕市生涯学習推進計画の策定スケジュール及び第3次計画策定に向けた市民意識アンケートの内容などについて協議させていただいた。
- 第3次燕市生涯学習推進計画については、令和4年度末の策定に向けて具体的に動き出すこととなる。

(4) 東京 2020 パラリンピック聖火フェスティバル燕市採火式（8月15日（日））

- 東京 2020 パラリンピック聖火フェスティバル燕市採火式が、8月15日に燕市産業史料館で開催された。
- 東京 2020 パラリンピックの聖火は、オリンピックの聖火とは異なり、それぞれの自治体がそれぞれの地域の特色を活かして採火された聖火を持ち寄って集火する方法がとられ、燕市では、鎚起銅器の製作過程で起きる火から採火することとしたもの。
- 当日は、人間国宝であり、燕市の名誉市民の玉川宣夫さんによる鎚起銅器製作実演があり、焼きなましの工程で使う炉の火から玉川さんが採火し、その火を燕市在住のパラ陸上の選手である坂田由香利さんが受け取り、坂田さんにより聖火ランタンに灯された。
- 聖火ランタンに灯された聖火は、8月16日（月）午前8時30分から午後1時まで市役所のエントランスホールで展示された後、坂田由香利さんから新潟市の新潟ふれ愛プラザへ燕市の火として届けられ、県内他市町村の火と一緒に新潟県の火として集火され、「東京 2020 パラリンピック聖火（新潟県）」として、開催都市の東京へ送り出された。

(5) 「子育てコンシェルジュ」第二期生任命式（8月17日（火））

- 昨年度の子育てコンシェルジュ第一期生 20 名に続き、今年度研修を修了した第二期生 19 名の任命式を8月17日に市役所つばめホールで開催した。
- 今年度は、児童クラブや児童館の職員 19 名が、国の定める子育て支援員研修を修了し、この日、燕市の子育てコンシェルジュに任命されたもの。
- 当日は、研修修了者に鈴木市長から研修の修了証書と子育てコンシェルジュの任命書が授与された。
- 子育てコンシェルジュ第二期生の皆さんが、第一期生と力を合わせて、燕市における子育て支援に力を発揮してくれるものと期待している。

3 結びに

- 新型コロナウイルスの感染拡大が続いている。県内でも急速に変異ウイルス「デルタ株」に置き換わっており、それが感染の急拡大につながっているとの指摘もある。このような状況を踏まえると、ワクチン接種が進む中でも、まだまだ先が見通せない状況にあると感じている。
まずは、各自が気を緩めることなく、感染症予防対策をしっかりと行っていき、それしかないと考えている。

○委員（小林 恵子）

「子育てコンシェルジュ」について、子育てコンシェルジュに任命されたことで

仕事内容が変わったり、給与体系が変わることはあるのか。

○子育て支援課長（白井 健次）

給与体系や仕事内容が変わるものではないが、子育てコンシェルジュになることで保護者からの相談にスムーズに対応できるようになると考えている。

また、子育てコンシェルジュが同じ職場内の職員に知識の共有をしていただくことで、施設全体の子育て相談の質の向上に繋げていきたい。

○委員（小林 恵子）

子育てコンシェルジュになることでインセンティブがあると、受けようとする人が増えるのではないかと。

○教育長（山田 公一）

燕市では、どの施設でも一定の質の子育て相談を実施できる体制を整え、燕市全体の子育て環境の向上ために「子育てコンシェルジュ」の取り組みを実施している。特定の人を限定してコンシェルジュに育成する取り組みではないため、現状ではコンシェルジュになったことに対するインセンティブは考えていない。

○委員（斎藤 純郎）

全国的に子どもの新型コロナウイルス感染が拡大している。一部の自治体では2学期の始業式を遅らせる判断も行われている。文科省から通知も出ていると思うが、園や学校で今まで以上に感染症対策に取り組んでいただきたい。

○主幹（鈴木 華奈子）

8月校長会で、2学期以降の教育活動について、感染症予防対策の徹底を改めて通知した。そこで、昨年度各学校が取り組んだコロナ対策の中で効果的だったと思われる対策を例示し、それを参考にして各学校の状況に応じて適切に対応するよう指導した。より安心安全に教育活動が継続できるよう、教育委員会として支援を続けていく。

（3）寄附報告

2件の寄附について

〈No. 1、2について石田社会教育課長が説明〉

4 専決処分の報告について

報告第 7 号 共催・後援の教育長専決報告について

6 件の共催・後援申請について

〈No. 1 について岡部学校教育課長が説明〉

〈No. 2 について石田社会教育課長が説明〉

〈No. 3、4、5、6 について岡部学校教育課長が説明〉

5 協議題

協議第 6 号 新規共催・後援申請について

2 件の後援申請について

〈No. 1 について岡部学校教育課長が説明〉

〈No. 2 について石田社会教育課長が説明〉

審議の結果、全員異議なく No. 1、2 は承認された。

8 閉 会 午後 2 時 15 分

燕市教育委員会会議規則（平成18年燕市教育委員会規則第2号）第17条第2項の規定により会議録に署名する。

令和 9 年 9 月 28 日

教 育 長 山 田 公 一

教 育 委 員 甲 野 信 男

教 育 委 員 秦 久 美 子

教 育 委 員 齋 藤 純 郎

教 育 委 員 小 林 恵 子

教 育 委 員 上 田 佳 澄

会 議 録 作 成 職 員 志 賀 覚 子